

平成28年度生物多様性推進活動

石巻市立大原小学校

～テーマ～

ふるさとの海に学ぶ

〒986-2412
石巻市大原浜大光寺1番地
TEL(0225)46-2121
FAX(0225)46-2171
Eメール
elsohar@city.ishinomaki.lg.jp

校長 古積 裕一
全校児童 16名



学校紹介

牡鹿半島の先端部を占める旧牡鹿町の南西部に位置しています。出入りの多い海岸線は仙台湾に面し、波静かな海は養殖業に適しています。給分浜にある中沢遺跡から、縄文時代前期の竪穴式住居跡も発見されています。中世末期の葛西氏出城の存在、仙台藩時代には宿駅、明治以降は大原村役場が置かれるなど経済的・政治的中心だったと思われます。

保護者の半数以上は沿岸漁業と養殖業に従事し、学校行事等への参加率もよく、学校への協力を惜しみません。児童は、純粋で明るく素直です。人数が少ないため、学年に関係なく仲良く遊び、上学年は下学年の世話をよくしています。

地域の方々とのかかわりを深めながら、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさと大原の復興を目指し、発信できる児童の育成



伝えよう

「カキ養殖の父」、「世界のカキ王」と称された宮城新昌氏の「カキは栄養食品だから、豆腐のように日本人に食べさせたい」という強い意志で技術を広めた先人の生き方を体験を通して、学んでいます。毎年、2月に「ふるさと発表会」で地域の方々を招待し、伝統食の「カキ汁」を振舞い、ふるさと大原の恵みに感謝しています。



宮城新昌さんの思い



鮭の遡上



ふるさと発表会（食体験）

守ろう

3・4年生は、大原森林教室を通して、「森林に降った雨が養分を含んで海を豊かにしていること」を学習しています。また、間伐作業等を通して、豊かな海を守るために自分たちができることを考えています。

2月には「カキむき体験」を実施し、ふるさとの産業について学んでいます。地域の方々及安全・安心なカキをたくさんの方に届けるために気を付けていることを知る良い機会になっています。



カキむき体験（西出当カキ共同処理場との連携）



大原森林教室（林野庁東北森林管理局との連携）



森林の栄養が海に流れているんだよ



牡鹿の豊かな海で大きく育ったね

ふれよう

地域の方々に御協力をいただきながら、カキ養殖体験（からこさし体験…3・4年生、種はさみ体験…5・6年生）に取り組んでいます。作業終了後は実際にカキを海に投入します。

カキの稚貝は海中を漂うプランクトンを食べて大きく成長していきます。プランクトンが多く、豊かな海で育つ牡鹿半島のカキはとてもおいしいと評判です。



カキの投入体験（保護者、地域との連携）



からこさし体験



種はさみ体験



お父さん方がかっこいいと思った

私たちは、平成11年からカキ養殖体験に取り組んでいます。

